

オセルタミビルリン酸塩(タミフル)の平成21年4月1日以降に新たに副作用報告された異常な行動が記録されている事例の概要
(平成22年6月末までの企業情報入手事例)

| No | 識別番号 | 性 | 年齢 (歳) | 一日用量 | 併用薬 | 副作用(PT) | 転帰 | 経過の概要 | 備考 |
|----|----------|----|-----------|------------------------|---|---------|----|--|----|
| 1 | 09000359 | 女性 | 6 | 40mg×2回/日 | アスピリン カルボシステイン 酪酸菌製剤 オキサトミド 酸化マグネシウム ポリカルボフィルカルシウム | 譫妄 | 回復 | <ul style="list-style-type: none"> ・体重:20kg ・発症日:2009/03/05(17時) 発熱:38.2℃、腹痛 ・診断日:2009/03/06(午前)、FluA ・2009/03/06 本剤40mg×2回/日投与開始 ・2009/03/09(15:00頃)インフルエンザA せん妄(医師重篤度:非重篤)発現。自宅で起きていたが、突然10人くらいの鉄砲をもった人においかけられたといってふだんは登らない2段ベッドにのぼってこわがっていた。とびおりにていない。 (夕方)本剤内服中止。(20:00)せん妄の転帰:回復 ・2009/03/10 当科受診時は意識清明、問題なし。 | |
| 2 | 09001833 | 男性 | 8 | 60mg×2回/日 | 塩酸シプロヘプタジン ヒベンズ酸チペピジン カルボシステイン ツロブテロール アセトアミノフェン | 異常行動 | 回復 | <ul style="list-style-type: none"> ・体重:30kg ・診断日:2009/03/23 FluB ・発症時に認められた自他覚症状:発熱:39.2℃、鼻症状(16:30)B型インフルエンザ治療のため本剤60mg×2回/日投与開始。両親によると熱はさがった様子(未測定)。(19:00)異常行動(医師重篤度:非重篤)発現。突然「お腹が空いた」「怖い怖い」立って動き回る。呼びかけに応じない。 (19:20)異常行動の転帰:回復 ・転帰日:2009/03/26頃 | |
| 3 | 09002231 | 男性 | 5 | 不明 | | 異常行動 | 回復 | <ul style="list-style-type: none"> ・診断日:2009/03/27(午後) FluB ・発症時に認められた自他覚症状:発熱:38.3℃ ・2009/03/27 B型インフルエンザ治療のため本剤(1回投与量不明)×2回/日投与開始(～2009/03/29)。 ・2009/03/29(22:40)異常行動発現。突然正座状態になり、上下に飛び跳ねる行動をとる。寝るように促すも、1分程度で再度起き、次は体を前後に大きくゆするような行動をとる。名前、自宅、トイレの場所は把握しており、トイレにて排尿行為は問題なし。その後就寝。 ・2009/03/30(朝)トイレのため起床。ただ、今まで見せない動きで、体は高熱を出した時のようにれん縮。動きは多動に似ている。 熱が下がった状態で本剤内服。 ・2009/03/31 本剤を内服しなかった日の翌朝は気になる動きはなし。 (7:00)異常行動の転帰:回復 | |
| 4 | 09003643 | 男性 | 9 | 43mg×2回/日 43mg×1回/日 | アセトアミノフェン カルボシステイン リン酸コデイン(1%以下) | 異常行動 | 回復 | <ul style="list-style-type: none"> ・身長:128cm、体重:24kg ・発症日:2009/01/23(時刻不明) ・発症時に認められた自他覚症状:発熱:39.2℃、咳 ・診断日:2009/01/24(午前9時) FluA ・2009/01/24(10:00頃)本剤43mg投与開始(～2009/01/25)。 (13:00頃)興奮(医師重篤度:非重篤)発現。昼すぎ興奮し、意味不明のことをしゃべる。暴れたりはしない。(夕食後)2回目服用。(夜中)布団からは出ないが、夜中にも時々目をさまし、意味不明のことをしゃべったり、奇声をあげたりする。 ・2009/01/25(9:00頃)3回日本剤服用。興奮(医師重篤度:非重篤)発現。興奮し意味不明のことをしゃべる。(14:00頃)失禁(医師重篤度:非重篤)、暴走(医師重篤度:非重篤)発現。尿失禁、部屋の中を走り回るため父親が制止。 (16:00頃)平熱に。夕食以降は本剤中止。失禁の転帰:回復 暴走の転帰:回復 ・2009/01/26 興奮の転帰:回復 | |

オセルタミビルリン酸塩(タミフル)の平成21年4月1日以降に新たに副作用報告された異常な行動が記録されている事例の概要
(平成22年6月末までの企業情報入手事例)

| No | 識別番号 | 性 | 年齢 (歳) | 一日用量 | 併用薬 | 副作用(PT) | 転帰 | 経過の概要 | 備考 |
|----|----------|----|-----------|-------------------------------------|--|---------|----|--|----|
| 5 | 09003648 | 女性 | 3 | 10mg×1回/日 10mg×2回/日 10mg×1回/日 | 塩酸シプロヘブタジン カルボシステイン 臭化水素酸デキストロメトルフアン | 熱性譫妄 | 回復 | <ul style="list-style-type: none"> ・体重:16kg ・発症日:2009/01/24(午後5時) ・発症時に認められた自覚症状:発熱:39.8℃、鼻症状 ・診断日:2009/01/25 FluA ・2009/01/25(夕方)39.8℃の発熱を呈した。本剤10mg×2回/日投与(～2009/01/27、当日夜より4度にわたり内服)。 ・2009/01/26(11:30)熱せん妄(医師重篤度:非重篤)発現。昼にドアのノブを盛んにカチャカチャまわす異常行動あり。(夜)睡眠中急におきて階段をかけ降りようとし母が制止(同日夕より発熱はなかった)。 ・2009/01/27 熱せん妄の転帰:回復 | |
| 6 | 09005488 | 女性 | 27 | 75mg×2回/日 | | 自殺既遂 | 死亡 | <ul style="list-style-type: none"> ・2009/01/02 他院にてインフルエンザと診断され、本剤75mg×2回/日投与開始(～2009/01/06)。 ・2009/01/12 37.9℃の発熱と食欲不振・倦怠感を主訴として本院外来受診。インフルエンザ迅速診断キットで診断し、インフルエンザは陰性であった。合併症としてうつ病あり。本院における本剤投与は無。入院し点滴などの一般的な対象療法を行ったところ患者の状態が改善し、14日に退院することになっていた。 ・2009/01/14(朝)自殺(飛び降り)発現。患者の姿が見えないことから捜索したが直ぐには発見できず。同日、近くのビルの下で倒れているところを発見された。他院に搬送されて死亡が確認された。従って当院では患者の死亡を確認していない。 ・自殺(飛び降り)の転帰:死亡 | |
| 7 | 09006785 | 女性 | 85 | 75mg×2回/日 | | 落ち着きのなさ | 回復 | <ul style="list-style-type: none"> ・体重:54kg ・2009/01/23 インフルエンザA型のため本剤75mg処方(～2009/01/23)。 ・2009/01/26 不穏発現。突然夜に部屋から這って管理人室に来られ、「お父さんの帰りが遅いから会社へ電話したいので電話帳を貸してほしい」と話す。 その後、部屋を見に行くと、カーテンの中にもぐっており、「お父さんがおさしみを買ってきてくれると言った」「お父さんが来た」などと話す。いつになく興奮した状態だった。 セレネース1mg錠4回分処方され、1回服用。 翌日より本剤中止の指示。 普段は物静かで温厚な方であり、また主人はずでに亡くなっている。 ・2009/01/27 不穏はなし。 ・不穏の転帰:回復 | |
| 8 | 09006907 | 男性 | 9 | 60mg×2回/日 | プロピオン酸フルチカゾン モンテルカストナトリウム | 異常行動 | 回復 | <ul style="list-style-type: none"> ・2009/05/07 インフルエンザ治療のため本剤60mg投与開始(～2009/05/10)。 ・2009/05/08 異常行動(医師重篤度:非重篤)発現。飛び出しそうな行動があった。 ・2009/05/09 解熱。この日以降服用しなかったが、寝る前にトイレで踏み台昇降運動のような動きをしたりした。投与中止7日後まで寝る前に動き回るなどの行動をし、その後寝るが、本人は寝る前の行動を覚えていない。来院した際、脳波などの検査をしたところ異常は無く、安心したのか夜は何事もなかった。その後少し寝る前の行動はあったが日ごとに軽くなり5月中旬には何も無くなった。 ・2009/05/14 異常行動の転帰:回復 | |

オセルタミビルリン酸塩(タミフル)の平成21年4月1日以降に新たに副作用報告された異常な行動が記録されている事例の概要
(平成22年6月末までの企業情報入手事例)

| No | 識別番号 | 性 | 年齢(歳) | 一日用量 | 併用薬 | 副作用(PT) | 転帰 | 経過の概要 | 備考 |
|----|----------|----|-------|-------------|--|-----------|----------|---|----|
| 9 | 09010391 | 男性 | 8 | 2.2mg×1回/日 | | 異常行動 | 回復 | <ul style="list-style-type: none"> 身長:137cm、体重:33.2kg 診断日:2009/01/19(午後4時) FluA 発症時に認められた自覚症状:発熱:38.2℃(発熱のみ) 2009/01/19 (20:00)A型インフルエンザ治療のため本剤2.2mg×2回/日投与開始(~2009/01/20)。睡眠時驚愕症(医師重篤度:非重篤)発現。睡眠中、急に「わっしょい、わっしょい」と大声で話しはじめた。(21:00)また入眠。その後本人は覚えていなかった。睡眠時驚愕症の転帰:回復 2009/01/20(8:00)本剤2.2mg投与。(8:05)幻覚(医師重篤度:非重篤)発現。「黄色いまぶしい光がみえる」と言った。(8:06)幻覚の転帰:回復(8:10)異常行動(医師重篤度:非重篤)発現。「おにごっこする」と言って1人で左回りで走り出し母親が静止する。(8:15)異常行動の転帰:回復(12:00)異常行動(医師重篤度:非重篤)発現。はさみを口の中に入れた。母親が静止。(12:05)異常行動の転帰:回復 その後すぐに近小児科受診し、リレンザ処方された。 2009/01/22 37℃へ解熱。 2009/01/25 治癒。 | |
| 10 | 09012284 | 男性 | 4 | 不明 | | 譫妄 | 不明 | <ul style="list-style-type: none"> 本剤服用1回目は動けず寝ている。 本剤服用4回目、譫妄(医師重篤度:不明)発現。階段からベッドに3回程とび降りる(3M程の高さ・飛び降り時の熱は36℃)。普段このような行動はしない。 譫妄の転帰:不明 | |
| 11 | 09012285 | 女性 | 4 | 不明 | | 譫妄 | 不明 | <ul style="list-style-type: none"> 本剤服用。 興奮、譫妄、神経系障害発現。 睡眠中うわごと、夜間ベッドの回りをぐるぐる動きまわる。1日目の日中泣くと、止まらず壁をたたき、感情が高ぶり「足がつれた」と幻覚のような症状。発現時間2時間。 転帰:不明 | |
| 12 | 09012286 | 不明 | 10代 | 不明 | | 異常行動 | 不明 | <ul style="list-style-type: none"> 本剤服用直後に外に飛び出した発現。 転帰:不明 | |
| 13 | 09013600 | 女性 | 9 | 89.7mg×2回/日 | ツロプテロール プロピオン酸フルチカゾン カルボシステイン メキタジン | 不眠症 激越 | 回復 回復 | <ul style="list-style-type: none"> 2009/07/23 夜から高熱(40度)がありぐったりしていた。不眠症、興奮状態の症状はなかった。 診断日:2009/07/24(午前10時) FluA (11:30)本剤46mg×投与。午後にはねむっていた。(16:00)目ざめ。(18:00)興奮状態発現。とにかく興奮状態。母親の話では「ハイテンション」で、日ごろ物静かな子が寝床から起きあがり、色々と話しまくる様子があった。(18:30)本剤46mg×投与。(19:00)不眠症発現。眠れなくなり、15分おきに眼が覚め布団から起きて歩き回ったりした。 2009/07/25 (朝)熱は36.8℃まで下がっていた。(夕)35.5℃と逆に低体温となった。とにかく15分寝た。すぐに目覚め、「ハイテンション」になる。 2009/07/26 (12:00)この時間まで「ハイテンション」が続いた。(18:00)不眠症の転帰:回復 2009/07/27 (10:00)興奮状態の転帰:回復 | |
| 14 | 09018975 | 男性 | 5 | 34mg×1回/日 | | 異常行動 | 回復 | <ul style="list-style-type: none"> 2009/09/19 本剤1回服用。 幻覚、走りまわる発現。家の中を走りまわったり、ヒトがいる等と言った。 幻覚の転帰:回復 走りまわるの転帰:回復 | |

オセルタミビルリン酸塩(タミフル)の平成21年4月1日以降に新たに副作用報告された異常な行動が記録されている事例の概要
(平成22年6月末までの企業情報入手事例)

| No | 識別番号 | 性 | 年齢 (歳) | 一日用量 | 併用薬 | 副作用(PT) | 転帰 | 経過の概要 | 備考 |
|----|----------|----|-----------|-------------------------------------|--|---------|----|---|----|
| 15 | 09019625 | 男性 | 7 | 不明 | | 異常行動 | 不明 | <ul style="list-style-type: none"> ・2009/10/11 インフルエンザ迅速診断キットによる診断結果がA型。治療のため本剤投与。 ・(服用30分後)異常行動(医師重篤度:軽微)発現。机の下にもぐりこみさわぐようすがみられたので、服用を中止した。 ・異常行動の転帰:不明 | |
| 16 | 09020391 | 男性 | 9 | 50mg×2回/日 | ヒベンズ酸チペピジン カルボシステイン d-マレイン酸クロルフェニラミン | 異常行動 | 回復 | <ul style="list-style-type: none"> ・身長:不明、体重:24.5kg ・診断日:2009/10/13(19時) ウイルス診断の有無:無(兄が同日FluA陽性) ・新型インフルエンザ疑い治療のため本剤50mg投与開始(~2009/10/14)。 ・2009/10/14 (8:30頃)嘔吐あり。その後本剤2回服用。 ・(10:30頃)異常行動(医師重篤度:非重篤)発現。ひとりで2階からおりてきて歩いており、母親が静止するとちぐはぐな事を言い、会話がなりたたなかった。そのまま当院にはこぼれたが、途中自家用車内で眠り、覚醒後は意識障害は回復していた。 ・(11:30)異常行動の転帰:回復 ・2009/10/17 転帰:回復 | |
| 17 | 09020845 | 不明 | 小児 | 不明 | | 異常行動 | 不明 | <ul style="list-style-type: none"> ・本剤投与開始(投与量、投与期間不明)。 ・家の中をグルグル歩き回った(医師重篤度:不明)発現。本剤投与で様子がおかしい。ザナミビル水和物に変えた。 ・転帰:不明 | |
| 18 | 09020848 | 男性 | 12 | 75mg×1回/日 | ヒベンズ酸チペピジン d-マレイン酸クロルフェニラミン セラペプターゼ アセトアミノフェン | 異常行動 | 回復 | <ul style="list-style-type: none"> ・体重:50kg ・2009/10/19 インフルエンザA治療のため本剤75mg投与。 ・(投与3時間半後)2階から1階におりて来てぐるぐるまわっているのみ、5分くらいで何でもなくなった(医師重篤度:非重篤)発現。 ・上記所見あったが5分以内に正常となったので特別な処置はしていない。本剤服用を中止とした。リレンザに変更。 ・転帰:回復 | |
| 19 | 09020849 | 男性 | 22 | 75mg×3回/日 75mg×4回/日 75mg×3回/日 | アセトアミノフェン | 異常行動 | 軽快 | <ul style="list-style-type: none"> ・身長・体重:不明 ・2009/10/07 救急外来受診後、本剤75mg×3回/日投与開始。 ・2009/10/08* 本剤75mg×4/日投与。 ・(昼)異常行動(徘徊)(医師重篤度:非重篤)発現。落ちつかない(徘徊)。 ・2009/10/09 本剤75mg×3/日投与。 ・2009/10/16 メンタルクリニック受診後、当院受診し本剤と精神症状を精査することとなる。 ・異常行動(徘徊)の転帰:軽快 | |
| 20 | 09021726 | 不明 | 1 | 不明 | | 異常行動 | 軽快 | <ul style="list-style-type: none"> ・本剤3日間投与(投与量不明)。 ・異常行動(ふとんの周りをぐるぐる回る)(医師重篤度不明)発現。熱は下がっている。 ・本剤中止後すぐに軽快した。 ・異常行動(ふとんの周りをぐるぐる回る)の転帰:軽快 | |

オセルタミビルリン酸塩(タミフル)の平成21年4月1日以降に新たに副作用報告された異常な行動が記録されている事例の概要
(平成22年6月末までの企業情報入手事例)

| No | 識別番号 | 性 | 年齢 (歳) | 一日用量 | 併用薬 | 副作用(PT) | 転帰 | 経過の概要 | 備考 |
|----|----------|----|-----------|------------------------|--|------------|------------|--|----|
| 21 | 09021727 | 男性 | 68 | 75mg×1回/日 75mg×2回/日 | ロキソプロフェンナトリウム クエン酸モサプリド レバミピド ファモチジン アロプリノール 酸化マグネシウム | 脳症 異常行動 | 後遺症 後遺症 | <ul style="list-style-type: none"> 身長:169cm、体重:64kg 発症日:2009/11/02(時刻不明) 発症時に認められた自他覚症状:発熱:39℃、消化器症状(嘔吐)、異常行動(本剤投与前はなし。その他、精神神経学的症状なし) 2009/11/05(夜中)かかりつけ医受診。インフルエンザ疑いのため本剤75mg×2回/日(～2009/11/08)、ロキソニン投与開始。 2009/11/06(午前)インフルエンザ脳症、異常行動発現。意味不明な言動あり。「つりをしよう」とベランダへ行った。 2009/11/07 異常行動あり。 2009/11/08 40℃発熱持続。(12:15)全身性痙攣出現(12:30)セルジン使用。 (13:30)痙攣出現。人工呼吸器管理となる。ガイドラインに沿ってソルメドロールパルス療法、血しょう交換施行。(時刻不明)頭部CT:左右差あり、右側で浮腫疑い。 2009/11/09 頭部MRI:右側頭葉中心に異常信号が認められる。脳表にも信号変化認める。非特異的变化で脳炎の変化などだったがわれ、臨床経過からインフルエンザ脳症の可能性が考えられる。 2009/11/10 インフルエンザ脳症疑いの転帰:未回復 | |
| 22 | 09021956 | 男性 | 11 | 75mg×1回/日 | クラリスロマイシン | 異常行動 | 回復 | <ul style="list-style-type: none"> 身長:不明、体重:44kg 発症日:2009/10/29(時刻不明) 発症時に認められた自他覚症状:発熱:38.3℃、頭痛 2009/10/29(9:10)38.3℃の発熱で受診。(10:30)帰宅後、A型インフルエンザ治療のためクラリス、本剤75mg投与。自室で寝た。(11:00頃)異常行動発現。目を覚まし、隣の隣にある父親の部屋に無意識のうちに移動していた(2階)。異常行動はそれだけで、怪我もなくその後回復。 異常行動の転帰:回復 | |
| 23 | 09022512 | 男性 | 9 | 45mg×1回/日 | 塩酸セフカペンピボキシル チアプロフェン酸 カルボシステイン ジプロフィリン・ジヒドロコデイン配合剤 | 異常行動 | 回復 | <ul style="list-style-type: none"> 身長:不明、体重:26.5kg 発症日:2009/10/29(午前) 発症時に認められた自他覚症状:発熱:38.4℃、咳、咽頭痛 2009/10/30(午前)新型インフルエンザ疑い治療のため本剤45mg投与。 (投与2時間後)異常行動(医師重篤度:非重篤)発現。奥の部屋から約10m先の玄関へ猛スピードで走っていった。母親が取り抑え、近くの部屋で約10分間抱えて抑えていた。その間も「何かが来る」と言ったり、逃げまどうような言動が続く。 救急搬送にて他院へ運ばれ、ソリタT3(用量不明)で鎮静。 帰宅後、異常行動消失。 2009/11/05 異常行動の転帰:回復 | |
| 24 | 09022514 | 不明 | 小児 | 不明 | | 異常行動 | 不明 | <ul style="list-style-type: none"> 本剤投与開始(投与量・投与期間不明)。 本剤投与3日目、夜中に徘徊(医師重篤度:不明)、悪夢を見て泣き出す(医師重篤度:不明)発現。 夜中に徘徊の転帰:不明 悪夢を見て泣き出すの転帰:不明 | |

オセルタミビルリン酸塩(タミフル)の平成21年4月1日以降に新たに副作用報告された異常な行動が記録されている事例の概要
(平成22年6月末までの企業情報入手事例)

| No | 識別番号 | 性 | 年齢 (歳) | 一日用量 | 併用薬 | 副作用(PT) | 転帰 | 経過の概要 | 備考 |
|----|----------|----|-----------|------------------------|--------------------------------------|--------------|----------|--|----|
| 25 | 09023181 | 男性 | 10 | 70mg×1回/日 70mg×2回/日 | カルボシステイン トラネキサム酸 | 異常行動 | 回復 | <ul style="list-style-type: none"> 身長:不明、体重:35kg 発症日:2009/11/09(時刻不明) 発症時に認められた自覚症状:発熱:38°C、頭痛 2009/11/09(午後)インフルエンザ治療のため本剤投与70mg×2回/日投与開始(~2009/11/10)。嘔気・嘔吐あった。異常行動(医師重篤度:非重篤)発現。家の中をウロウロ歩き回る。「コワイ」などの言葉を発する。 2009/11/10(夜)発熱もおさまっていたが、再び「コワイ」、「ヤバイ」などと言ったり繰り返した(前夜よりは軽度)。 2009/11/11以後本剤中止し異常行動はなし。 異常行動の転帰:回復 | |
| 26 | 09023539 | 女性 | 16 | 75mg×2回/日 | | 異常行動 | 回復 | <ul style="list-style-type: none"> 2009/11/11他院受診しインフルエンザ陰性。 2009/11/12(午前)本院受診し新型インフルエンザ(H1N1)治療のため本剤75mg投与。(午後)本剤75mg投与。(23:00)入眠。異常行動(医師重篤度:非重篤)発現。意味のない事をしゃべり起きだし、表口のキイを開けようとし、家族が横にして眠らせた。(発現10分後)再度同様の発作。以後10分後とに朝方5時まで継続された。 2009/11/13(7:00)異常行動の転帰:回復 | |
| 27 | 09023540 | 女性 | 7 | 47mg×2回/日 | ヒベンズ酸チベピジン 塩酸シプロヘプタジン カルボシステイン | 異常行動 | 回復 | <ul style="list-style-type: none"> 2009/11/15インフルエンザ発症(発熱38.2度)。 2009/11/16来院しインフルエンザA型の診断にて本剤(投与量不明)処方。帰宅し服用(~2009/11/17)。 2009/11/17(2:00頃)異常行動(医師重篤度:非重篤)発現。意味不明の言葉を発し走りながらトイレに入った。出てくるときには裸だった(体温は38度)。 (朝)元に戻っていたが夜のことは本人は記憶にない。 異常行動の転帰:回復 | |
| 28 | 09024100 | 男性 | 2 | 27mg×2回/日 | | 異常行動 | 不明 | <ul style="list-style-type: none"> 本剤27mg服用。 (夜)異常行動(医師重篤度不明)発現。枕を持ってうろろする、泣き喚く。2日目、朝の分を昼前に本剤27mgを服用後「せみがいてる」という。以後本剤の服用は中止。 異常行動の転帰:不明 | |
| 29 | 09024432 | 不明 | 9 | 50mg×2回/日 | | 異常行動 異常行動 | 回復 回復 | <ul style="list-style-type: none"> 体重:25kg 2009/11/22(晩)頭痛、せき、のど。 2009/11/23A型で処方。(18:00過ぎ)母帰宅。37.6°C。(19:30)本剤50mg服用。 2009/11/24(0:00)行動異常(医師重篤度不明)発現。「こわいこわい」とテーブルの周りをまわり、顔色悪く、5分後に楽になって寝た。(朝)37.3°C。(8:30過ぎ)本剤服用。38.5°C。(12:00過ぎ)行動異常(医師重篤度不明)発現。突然起きて「暑い暑い」と玄関をあけて、5mくらい先の道路まで出た。父親がつかまえた。(16:30頃)38.9°C。 服用中止後、特に問題なく元気に過ごされている。 異常行動の転帰:回復 | |

オセルタミビルリン酸塩(タミフル)の平成21年4月1日以降に新たに副作用報告された異常な行動が記録されている事例の概要
(平成22年6月末までの企業情報入手事例)

| No | 識別番号 | 性 | 年齢(歳) | 一日用量 | 併用薬 | 副作用(PT) | 転帰 | 経過の概要 | 備考 |
|----|----------|----|-------|------------------------|--|---------|----|--|----|
| 30 | 09024435 | 男性 | 11 | 72mg×2回/日 72mg×1回/日 | 臭化水素酸デキストロメトルファン アセトアミノフェン | 異常行動 | 回復 | <ul style="list-style-type: none"> 2009/11/17 (14:00)T=38.9にてA型インフルエンザ(新型インフルエンザ疑い)治療のため本剤72mg投与。(16:00)T=37.6になるが、興奮状態(多動、多弁、不眠)(医師重篤度:非重篤)発現。部屋のかべに頭をぶつける、手足をばたつかせるなど多動。(19:00)落ちつく。頭痛がひどくカロナールを服用。(23:00)T=37.4、頭痛、関節痛強くなる。本剤服用。 2009/11/18 (1:00)熱症状軽減するも、部屋を動き回ったり、多弁になる。(9:00)T=37.4。頭痛、関節痛強くなる。本剤服用するも多動などなく入眠する。 (昼頃)T=36.0で頭痛、関節痛もなく空腹感あり。食事も摂取する。 興奮状態(多動、多弁、不眠)の転帰:回復 | |
| 31 | 09025311 | 男性 | 4 | 56mg×2回/日 | 鎮咳配合剤(1) 塩酸アンブロキシール セフトレンピボキシル ジアゼパム クラリスロマイシン | 異常行動 | 回復 | <ul style="list-style-type: none"> 2009/11/18 咳症状にて他院を受診し、その時は熱がなかったから「フスコデ・ムコサル・メイアクト・ダイアアップ」の処方。 2009/11/23 (夜)39.1度の発熱にて救急で受診し本剤56mg×2回/日投与開始(～2009/11/24)。 2009/11/24 当院を受診した際には36度に解熱していたが本剤を継続処方。クラリス処方。(夜)異常行動(医師重篤度:非重篤)発現。走り回るなどして躓いて転んだり(けがはなし)、大声を出したり大きな音を出したりしたとのこと。また、名前を呼んでも返事しないとのこと。それで本剤を中止させた。 2009/11/25 異常行動の転帰:回復 | |
| 32 | 09025389 | 女性 | 9 | 57mg×1回/日 | カルボシステイン フマル酸ケトチフェン アセトアミノフェン | 異常行動 | 回復 | <ul style="list-style-type: none"> 身長:不明、体重:28.1kg 診断日:2009/11/24(午後) ウイルス診断の有無:有(FluA、サンプル採取箇所:鼻腔) 2009/11/24 新型インフルエンザ治療のため本剤57mg/日投与開始(～2009/11/25)。食後第1回服用の時には異常なし。 2009/11/25 (朝)朝食後に38.1度の発熱を計測後本剤投与。(1時間以上経過、10:00台)異常行動発現(非重篤)。熱37.6度。ベットからでて部屋の隅に行き怯えて泣く、意味不明の言葉を発する。母親から薬局にTELあった。どのような処置を講じるべきかとのこと。処方Drに連絡。本剤中止を指示。(16:00台)異常行動回復。 | |
| 33 | 09025543 | 男性 | 46 | 75mg×2回/日 75mg×1回/日 | | 自殺念慮 | 回復 | <ul style="list-style-type: none"> 2009/11/25 A型インフルエンザ(新型インフルエンザ疑い)治療のため本剤75mg投与。 2009/11/26 (8:00)精神神経症状(自殺念慮)(医師重篤度:非重篤)発現。本人の自覚として起床後、飛び降りたくなったとの念慮があったとのこと。異常な行動(医師重篤度:非重篤)発現。朝ごはんの前にいつもとは明らかに違う行動をとりだした(言葉では表現できないとのこと)。妻が抱きかかえおさえたとのこと。けいれん(医師重篤度:非重篤)発現。 (12:00)精神神経症状(自殺念慮)の転帰:回復、異常な行動の転帰:回復、けいれんの転帰:回復 | |

オセルタミビルリン酸塩(タミフル)の平成21年4月1日以降に新たに副作用報告された異常な行動が記録されている事例の概要
(平成22年6月末までの企業情報入手事例)

| No | 識別番号 | 性 | 年齢 (歳) | 一日用量 | 併用薬 | 副作用(PT) | 転帰 | 経過の概要 | 備考 |
|----|----------|----|-----------|---|---|------------|----------|---|----|
| 34 | 09025544 | 男性 | 9 | 不明 58.5mg×1回/日 58.5mg×2回/日 58.5mg×1回/日 | ヒベンズ酸チペジジン 塩酸プロムヘキシン カルボシステイン 塩酸シプロヘプタジン | 夢遊症 夢遊症 | 回復 回復 | <ul style="list-style-type: none"> 身長:不明・体重:29kg 2009/03/10 インフルエンザ罹患。 2009/03/11 本剤投与(投与量・投与期間不明)。睡眠時遊行症(医師重篤度不明)発現。家でさけびながら走りまわる事があった。強く抑えたらおちついた。その後も内服継続した。 2009/03/14 睡眠時遊行症の転帰:回復 2009/03/16 受診したが、その時は特に問題なく治療終了となる。 2009/11/24 (夕方)夕食後、インフルエンザA型(新型インフルエンザ疑い)治療のため本剤58.5mg投与開始(~2009/11/27)。(深夜)睡眠時遊行症・驚愕症(医師重篤度不明)発現。幻覚・うわごと・はいかい。睡眠中に叫んだり、問いかけにも意味不明な会話。異常行動の後、本人記憶ない。本剤は継続。 2009/11/27 解熱し症状は消失。内服後、登校許可もらう。 睡眠時遊行症 驚愕症の転帰:回復 | |
| 35 | 09025767 | 男性 | 16 | 75mg×2回/日 | アセトアミノフェン | 異常行動 | 回復 | <ul style="list-style-type: none"> 身長:169cm、体重:64kg 発症日:2009/12/11(17時) 発症時に認められた自他覚症状:発熱:38.7℃、頭痛、咳、鼻症状(鼻水、鼻づまり、くしゃみ)、悪心、咽頭部の発赤、頸部リンパの腫脹 診断日:2009/12/13(午後) ウイルス診断の有無:有(FluA、サンプル採取箇所:記載なし) 2009/12/13(午後)体温38.7℃(15:00)本剤75mg投与。(21:30)本剤75mg投与。 (23:00)体温38.0℃、恐い夢を見る。 2009/12/14(3:30)異常行動(医師重篤度:非重篤)発現。ふらふらしながら過呼吸気味に母にかけよる。記憶はない。けいれんはなし。 (4:30)恐い夢を再び見る。救急背センター受診し、脱水症状と診断。 (11:30)当院に受診。 異常行動回復。 | |
| 36 | 09025943 | 男性 | 7 | 45mg×1回/日 | アセトアミノフェン 臭化水素酸デキストロメトルフアン 塩酸アンブロキシソール | 異常行動 | 回復 | <ul style="list-style-type: none"> 身長:不明、体重:23kg 発症日:2009/10/13(時刻不明) 発症時に認められた自他覚症状:発熱:39℃、頭痛、眼痛 2009/10/14(午前)A型インフルエンザ(新型インフルエンザ疑い)治療のため本剤45mg投与。(投与約1時間後)幻覚(医師重篤度:非重篤)、異常発言(医師重篤度:非重篤)発現。天井を指して「～がいる」と騒ぎだした。その後、トイレにかけこみ、トイレの中で「ウオー」と奇声を発し続けた。 2009/10/15 幻覚の転帰:回復 異常発言の転帰:回復 | |

オセルタミビルリン酸塩(タミフル)の平成21年4月1日以降に新たに副作用報告された異常な行動が記録されている事例の概要
(平成22年6月末までの企業情報入手事例)

| No | 識別番号 | 性 | 年齢(歳) | 一日用量 | 併用薬 | 副作用(PT) | 転帰 | 経過の概要 | 備考 |
|----|----------|----|-------|------------------------|---|------------|----------|---|----|
| 37 | 09026228 | 女性 | 8 | 不明 | | 譫妄 異常行動 | 回復 回復 | <ul style="list-style-type: none"> 2009/10/23 (朝)38度台となり近医受診。A型インフルエンザの診断を受け本剤の投与を受けた(投与量不明)。(昼)本剤内服。(夜)本剤内服。 2009/10/24 (朝)解熱し元気になった。本剤内服。(17:45)本剤内服。(17:55)無熱せん妄(医師重篤度:不明)、異常行動(医師重篤度:不明)発現。突然「胸が痛い」「苦しい」「死ぬ」などを口走り号泣、呼名には応じず、背臥位のままぐるぐる動きまわるなどの異常行動も見られた。救急車を要請し当院ER受診。受診時意識レベルはGCSでE4V3M6であり、追視はあったが呼名反応には応じなかった。診察中、意味不明のつぶやきや「月曜日は学校に行く、無理なら火曜日には行く」など、論旨は通るが唐突な言動を繰り返した。大きな異常行動は見られなかったが、点滴部位の固定絆創膏をはがそうとする動きが見られた。体温36.1度、意識レベルを除いて神経学的異常もなく、電解質など血液検査も異常なかった。観察入院。入院後は入眠。 2009/10/25 (朝)GCS15となり、神経学的異常も認めず、退院した。 無熱せん妄の転帰:回復 異常行動の転帰:回復 | |
| 38 | 09026564 | 男性 | 8 | 67mg×1回/日 | 麻黄湯 クラリスロマイシン カルボシステイン | 異常行動 | 回復 | <ul style="list-style-type: none"> 身長:不明、体重:33.3kg 2009/11/10 (11:00)A型インフルエンザ(新型インフルエンザ疑い)治療のため本剤67mg×2回/日投与開始(~2009/11/14)。(22:00)発熱あり。異常行動(医師重篤度:非重篤)発現。室内をウロウロ歩きまわる。犬が歩いているという。だれかがいるという。意味不明な発現あり。 2009/11/11 (夜間)解熱(37°C以下)。室内をウロウロ歩きまわる。意味不明な発現あり。 2009/11/17 異常行動の転帰:回復 特に後遺症なし。 2009/12/15 (17:44)上気道炎にて当院受診。異常行動なく、まったく正常であった。 | |
| 39 | 09027130 | 男性 | 9 | 50mg×1回/日 | アセトアミノフェン ヒベンス酸チペピジン カルボシステイン 塩酸シプロヘプタジン | 異常行動 | 回復 | <ul style="list-style-type: none"> 身長:不明、体重:27.5kg 2009/12/06 (14:00)A型インフルエンザ(新型インフルエンザ疑い)治療のため本剤50mg投与。(14:30)異常行動(医師重篤度:非重篤)、幻覚(医師重篤度:非重篤)、幻視(医師重篤度:非重篤)発現。急に起き上がり騒ぎはじめトイレに行くといって浴室で排尿する。天井に何か見えるとおびえてさわぎあばれる。その後約30分で入眠する。起床後はぼんやりしていた。 (18:00)異常行動、幻覚、幻視の転帰:軽快 2009/12/07 受診しリレンザ吸入に変更す。 | |
| 40 | 09027131 | 男性 | 5 | 24mg×1回/日 24mg×2回/日 | | 幻覚 | 回復 | <ul style="list-style-type: none"> 身長:不明、体重:17.5kg 2009/10/21 (19:30)A型インフルエンザ(新型インフルエンザ疑い)治療のため本剤24mg投与開始(~2009/10/22)。(21:30)本剤服用2時間後、幻覚(医師重篤度:非重篤)発現。台所へ行って泣いてコップを見る動作を反復した。視線も異常であった。5~10分間。 2009/10/22 (3:30)幻覚(医師重篤度:不明)発現。毛布の上で実際にはいない虫をつまむ動作を反復して「これ嫌い」といっていた。5~10分間。 幻覚の転帰:回復 | |

オセルタミビルリン酸塩(タミフル)の平成21年4月1日以降に新たに副作用報告された異常な行動が記録されている事例の概要
(平成22年6月末までの企業情報入手事例)

| No | 識別番号 | 性 | 年齢(歳) | 一日用量 | 併用薬 | 副作用(PT) | 転帰 | 経過の概要 | 備考 |
|----|----------|----|-------|-----------|-----------|---------|----|--|----|
| 41 | 09027234 | 男性 | 13 | 75mg×1回/日 | | 異常行動 | 回復 | <ul style="list-style-type: none"> 身長:不明、体重:49kg 2009/12/12 (18:00)37.8°C、咽頭痛。 2009/12/13 (0:00)39.7°C。(10:00)外来受診。(11:00)A型確定。(13:00)昼食後本剤75mg内服。(14:00)異常行動(医師重篤度:非重篤)発現。突然起き上がり2階へのぼり戸棚を開け閉めし意味不明な言葉を発する。(14:30)おさまる。 異常行動の転帰:回復 2009/12/14 (9:00)患者へTEL後状態安定確認。 | |
| 42 | 09029047 | 不明 | 4 | 不明 | | 異常行動 | 不明 | <ul style="list-style-type: none"> 身長・体重:不明 (夜)本剤服用。一緒に寝付いた。(1時間半後)庭先を走り回る(医師重篤度不明)発現。目を覚ますといない。庭先で走り回っている。呼びとめるとポーっとしている。 (時刻不明)本剤ではないだろうともう一回服用。また庭先で走り回った。抱っこした。「10メートル」と言って走る。 4日分渡された。服用前には大丈夫だろうと言われた。4日間ともに走り回った。1回だけ「10メートル」と騒いだ。暴れはしない。抱っこしてフンで寝た。今までぐったりしていたが急に走り回った。 解熱した。熱があったら来なさいと言われた。 2010/01/12 病院に行き伝えた。本剤にはまったく触れず。せきどめ。異常行動には触れず。レントゲンで肺炎ではないと言われた。 庭先で走り回るの転帰:不明 | |
| 43 | 09029095 | 男性 | 7 | 不明 | | 異常行動 | 不明 | <ul style="list-style-type: none"> 身長・体重:不明 2009/11 新型インフルエンザに感染し本剤投与開始(投与量・投与期間不明)。 本剤2日間内服後、異常行動(医師重篤度不明)発現。主治医より「本剤はあわなかったのかもかもしれない」といわれ、リレンザの処方を受けた(熱はまだ高い状態)。 リレンザ2日服用したが、熱が下がらず熱性けいれんを起こし入院。3日で退院。 2010/01 異常行動を起こす。暴れたり、急に家を飛び出したりして目が離せない状態。別の病院にかかって調べてもらったが、どこも異常はなく脳症でもないといわれた。 異常行動の転帰:不明 | |
| 44 | 09029561 | 男性 | 7 | 36mg×1回/日 | アセトアミノフェン | 異常行動 | 回復 | <ul style="list-style-type: none"> 身長:不明、体重:18kg 発症時に認められた自他覚症状:発熱:37.7°C、咳 2009/12/16 (21:00)A型インフルエンザ(新型インフルエンザ疑い)治療のため本剤36mg投与。(22:30)異常行動(医師重篤度:非重篤)発現。寝ていたが突然起き出し「周囲をぞうきんがけするような行動」。その後部屋を徘徊したり、走り回ったりした。一転を凝視する異様な目つきで母親の呼びかけも一切無視。意味不明な事を口走る。10分程経過し興奮がおさまり寝ついたが、その後も突然起きて同様の症状を呈す。自分の名前を別人の名前であると主張する。その後再び寝ついたが計4回症状が出現した。 2009/12/17 (時刻不明)他院受診したが、症状がおさまっており経過観察とされた。 (夕)短時間意味不明な事を口走るという症状がみられた。 2009/12/18 異常行動の転帰:回復 | |

オセルタミビルリン酸塩(タミフル)の平成21年4月1日以降に新たに副作用報告された異常な行動が記録されている事例の概要
(平成22年6月末までの企業情報入手事例)

| No | 識別番号 | 性 | 年齢(歳) | 一日用量 | 併用薬 | 副作用(PT) | 転帰 | 経過の概要 | 備考 |
|----|----------|----|-------|---|--|---------|----|--|----|
| 45 | 09029791 | 男性 | 3 | 26mg × 1回/日 | テビベナムピボキシル 耐性乳酸菌製剤(3) フマル酸クレマスチン カルボシステイン ヒベンズ酸チペビジン 桜皮エキス ソロブテロール | 異常行動 | 不明 | <ul style="list-style-type: none"> 身長:不明、体重:13kg 2010/01/19 夜 39°C発熱、アンヒバ坐150mg使用。 2010/01/20 朝 38.2°C、当院受診(鼻汁・咳)。インフルエンザ簡易検査陰性、咽頭炎として抗菌剤等処方。帰宅後内服、39.5°C発熱。 午後 再受診。新型インフルエンザ疑いのため本剤(26mg × 2回/日)投与開始(～2010/01/21)。夜 本剤のみ、発熱は下がるも、夜中 異常な行動(短時間)発現(非重篤)。 2010/01/21 朝 37°C前後、本剤内服。スキップしたり同一行動を繰り返す。 昼食後吐く、意識消失。ボーっとしている為、救急車で小児病院入院。 異常な行動:転帰不明。 | |
| 46 | 09030220 | 女性 | 17 | 75mg × 2回/日 75mg × 1回/日 | | 異常行動 | 回復 | <ul style="list-style-type: none"> 身長・体重:不明 発症日:2009/12/13(時刻不明) 発症時に認められた自他覚症状:発熱:38°C、咳、消化器症状(嘔吐) 2009/12/14 A型インフルエンザ治療のため本剤75mg × 2回/日投与開始(～2009/12/15)。 2009/12/15 異常行動発現。泣き叫び2階より飛び降りそうになった。母親が気づいて止める。 2009/12/16 本人記憶なし。 2009/12/18 異常行動の転帰:回復 | |
| 47 | 09030684 | 女性 | 64 | 75mg × 1回/日 75mg × 2回/日 75mg × 1回/日 | レボドパ・塩酸ベンセラジド 塩酸プラミベキソール水和物 レバミピド 塩酸セレギリン ゾニサミド 塩酸セレギリン ゾニサミド | 異常行動 | 回復 | <ul style="list-style-type: none"> 身長:156cm 体重:41kg 発症日:2009/02/09(午後) 診断日:2009/02/09(午後14時頃) FluB、サンプル採取箇所:記載なし 2010/02/09 (14:00) 39°Cの発熱。 (16:00) B型インフルエンザに対し、本剤(75mg × 2回/日)投与開始(～2010/2/14)。 (夜)パーキンソン病症状の改善(非重篤)、異常行動(非重篤)発現。ジスキネジア(当患者は無動が強く、薬が効き動けるときにはジスキネジアを伴う)が出現。また、数年登ることもできなかった階段をいきなり駆け上がり、静止したが興奮した様子で話が通じなかった。 異常行動の転帰:回復 2010/02/10 意識清明。 2010/02/21 パーキンソン病症状の改善の転帰:回復 <p>・以前に同様の副作用を起こしたことがありますか? はい(パーキンソン病の治療薬のときと似ている)</p> <p>・副作用症状の精査のため、追加の検査が行われましたか? 採血でアドレナリン、ノルアドレナリンの濃度:特異的所見なし(元々L-dopa内服中でアドレナリン、ノルアドレナリンは高値のままだった)</p> | |
| 48 | 09032758 | 男性 | 18 | 75mg × 1回/日 75mg × 2回/日 75mg × 1回/日 | | 夢遊症 | 回復 | <ul style="list-style-type: none"> 身長・体重:不明 発症時に認められた自他覚症状: 発熱:38.8°C、咳、寒気 2010/02/02 A型インフルエンザ治療のため本剤75mg × 2回/日投与開始(～2010/2/7)。 2010/02/03 (2:00頃)睡眠時遊行(医師重篤度:非重篤)発現。就寝中起き出して外に出、自転車をガチャガチャと操作していた。隣に寝ていた父親が音に気付いて起き、連れ戻し寝かせた。 その後は何もなく朝まで寝ていたが本人は夜中のことは全く記憶がない。 転帰日:2010/02/07 睡眠時遊行の転帰:回復 | |

オセルタミビルリン酸塩(タミフル)の平成21年4月1日以降に新たに副作用報告された異常な行動が記録されている事例の概要
(平成22年6月末までの企業情報入手事例)

| No | 識別番号 | 性 | 年齢 (歳) | 一日用量 | 併用薬 | 副作用(PT) | 転帰 | 経過の概要 | 備考 |
|----|----------|----|-----------|-------------------|---|---------|----|--|----|
| 49 | 10000332 | 男性 | 7 | 42mg×1回/日 | ヒベンズ酸チペジジン カルボシステイン モンテルカストナトリウム アセトアミノフェン | 異常行動 | 回復 | 身長:不明、体重:20kg ・発症日:2010/02/04(午前10時) ・発症時に認められた自他覚症状:発熱:39℃、頭痛、咳、鼻症状、関節痛、倦怠感 ・診断日:2010/02/05(午前) FluA、サンプル採取箇所:鼻腔、PCR検査:なし (11:30)新型インフルエンザ治療のため本剤42mg×1回のみ服用。 (12:10頃)就寝。 (12:30)異常行動発現(非重篤)。急に起床し、寝台の周囲をぐるぐる走り回った。 (12:45)異常行動回復。 その後、当日中に再受診、特に問題ないと判断し、本剤中止にて経過観察とした。 | |
| 50 | 10006078 | 男性 | 7 | 投与量不明 2mg×2回/日 | 塩酸プロムヘキシン カルボシステイン 塩酸プロカテロール | 異常行動 | 回復 | ・身長:不明、体重:24.5kg ・2008(冬)インフルエンザ治療のため本剤投与、異常発言(うわ言)発現(非重篤)。転帰回復。 ・発症日:2009/06/15(午前) ・発症時に認められた自他覚症状:発熱:39℃台、咳、倦怠感、消化器症状(嘔吐)、経口摂取不良 ・診断日:2009/06/16(午前10時) ・ウイルス診断の有無:有(FluA、サンプル採取箇所:記載なし、PCRで新型陽性) ・2009/06/16(10:00)新型インフルエンザ治療のため、本剤2mg投与。 (14:00)異常言動発現(非重篤)。つじつまの合わない異常発言が何回か認められた。 (22:00)本剤2gm投与。 (23:30)異常言動。本人が「走ってる、走ってる」口走り、腕を振ってベッド上を走っている動作をした。ただし、ベッドから飛び降りる等の危険行動はなかった。 入院(~2009/6/22)。 ・2009/06/17 異常言動回復。 | |